

三三一四番

つぎねふ 山背道やましろぢを 他夫ひとつまの 馬うまより行くゆに

己夫おのつまし 徒歩かちより行ゆけば 見みることに 音ねのみし

泣なかゆ そこ思おもふに 心こころし痛いたし たらちねの

母ははが形見かたみと 我わが持もてる まそみ鏡かがみに 蜻蛉領巾あきづひれ

負おひ並なめ持もちて 馬買うまかへ我わが背せ

反歌はんか

三三一五番

泉川いづみがは 渡り瀬深わたせふかみ 我わが背子せこが 旅行たびゆき衣ころも 濡ぬ

れひたむかも

或本あるほんの反歌はんかに曰いはく

三三一六番

まそ鏡かがみ 持もてれど我われは 験しるしなし 君きみが徒歩かちより

なづみ行く見みれば

三三一七番

馬買うまかはば 妹徒歩いもかちならむ よしゑやし 石いしは踏ふむ

とも 我わは二人行ふたりゆかむ